

入域観光客統計概況

－平成17年2月分－

平成17年3月18日
沖縄県観光リゾート局

2月の入域観光客数は421,300人。前年同月比は△3.4% (△15,000人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～2月までの入域観光客数は813,700人。前年同期比は△0.2% (△1,800人)となった。

1. 国内外別入域状況

国内：413,400人 前年同月比△3.5% (△15,000人)
海外：7,900人 前年同月比±0.0% (±0人)

2. 主要航路別入域状況

東京：183,400人	前年同月比	△6.2%	(△12,200人)	構成比	43.5%
阪神：77,100人	前年同月比	△0.9%	(△700人)	構成比	18.3%
福岡：57,200人	前年同月比	△2.7%	(△1,600人)	構成比	13.6%
名古屋：36,300人	前年同月比	±0.0%	(±0人)	構成比	8.6%

3. 概況と見通し

2月の入域観光客数の概況としては、国内客については、航空路線の増便（名古屋路線と福岡路線の各1便増）や器材の大型化（札幌路線）、チャーター便の運航などがあったものの、前年が閏年であり本年は1日少なかったこと、主要路線である東京路線において旅行商品価格が前年より高めに設定されていたことなどにより、前年を下回る結果となった。

外国客については、旧正月に合わせたチャーター便の運航により空路は大幅に増加したものの、昨年は運航があったクルーズ船の寄港が本年はなかったことにより、外国客全体としては前年と同数となった。

今後の見通しとしては、国内客については、卒業旅行シーズンを迎え予約状況が好調なことや、3月上旬の航空輸送実績が好調に推移していること、修学旅行の増加が見込まれること、免税ショッピングを組み込んだ商品販売の本格化が期待されること、中部国際空港の開港等による旅行市場の活性化などにより、好調に推移することが見込まれる。

外国客については、3月下旬よりクルーズ船の運航が再開されることや愛知万博開催期間中のノービザを活用した誘客が期待されること、IDB総会の開催などにより、前年を上回るものと見込まれる。

担当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 2月は旅行商品価格が前年同月に比べ高く設定されたことから、旅行の手控えが見られ、各旅行社ともメディア商品、フリープラン商品の需要が弱かった。また、前年が閏年で今年は1日少なかったこともあり、前年を下回った。
- 3月は各エージェントとも昨年を上回る予約状況であり、好調に推移するものと予想される。

大阪事務所 (阪神地区)

- アジア方面を中心とする海外旅行へのシフトや前年が閏年で日曜日が5回あったことの影響により前年を下回った。
- 今後の見通しとしては、中学校の修学旅行シーズンを迎えることや4月に沖縄路線の器材が大型化 (ANA) されることにより、好調に推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 2月は、個人型・エスコート型とも好調に推移していたものの、大型団体旅行の減少により、前年を下回った。
- 3月は、沖縄本島への個人型、離島へのエスコート型とも好調に推移しており、前年を上回る勢いである。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 2月は、航空機の利用率が伸びており、沖縄への旅行意欲は旺盛であったと思われる。特にツアー型が好調とのことであった。
- 今後の見通しとしては、修学旅行を含め団体型が好調であるが、4月以降の個人旅行の予約がやや鈍い。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 2月の増加要因は、航空器材の大型化やJALの「琉球休暇キャンペーン」の展開による誘客効果と大手旅行社を中心とする販売の強化が挙げられる。また、キャンペーンが継続される3月までは、好調に推移する見込である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 春節休暇に合わせたチャーター便の運航やマスコミ招聘事業による個人客の掘り起こしなどにより、空路は大幅に増加したものの、昨年は2回運航があったクルーズ船の寄港がなかったため、全体としては前年を下回った。
- 今後は、クルーズ船の運航再開や情報誌への沖縄特集の掲載による需要の掘り起こし、愛知万博期間中のノービザ措置等により、増加が見込まれる。

韓国事務所 (韓国地区)

- 2月は、正月連休に合わせてチャーター便が運航されたことやパッケージ商品が好調に販売されたことにより、入域観光客の大幅な増加となった。